

いま 今井町 ちょう

中世から生きる町並み

「悠久の時」を刻んだ町名がたくさん残る檀原市。なかでも「重要伝統的建造物群保存地区」今井町は、現存の称念寺を中心に回りを濠（ほり）と土塁で囲んだ「寺内町」（環濠城塞都市）として、約四〇〇年前に造られました。

当時の住民だった一向宗（真宗）信徒が織田信長の抑圧に抵抗して築いた町並みで明智光秀の率いる軍勢に降伏したものの、そのあとも大きな町の力を保ち続けてとうとう信長に町民の自治を認めさせたという輝かしい歴史を持っています。江戸時代も南大和随一の商業都市として栄え、豊かな町の財力を無視することのできなかつた江戸幕府もその後、直轄領にして町民の自治を認めています。

町名「今井」は、人が住む集落に欠かせぬ水源の「井戸」から生まれたといわれ、また「今」は「新」に通ずるといふ説もあります。町の前身となる「新しい」集落が古代すでに、この地に姿を見せていたものと考えられています。

同町には、今西家・豊田家など中世から江戸時代に建てられた重要文化財指定の家屋八戸が今も現存し、これらの建造物を中心に建ち並ぶ古い家々で市民の日常生活が脈々と生き続いています。